

## 大分市大規模火災における消防活動等の概要

---

### 総務省消防庁

※本資料は、出場隊員等から聞き取った内容に基づき作成されており、時刻、ホースライン、延焼範囲等の詳細は、今後変更する可能性がある。

# 大分市消防局の活動の概要

※大分市消防局への調査結果をもとに作成

当初、**火元を包囲**し消火を図ったが、**風の強さや向きが変化**する中、延焼が拡大した。**街中で次々と飛び火**火災が発生したため、順次、**放水箇所を移動**し、**退路を確保**しつつ消火活動にあたった。その後、更に延焼が拡大したことを受け、市道田中線（東側道路）に**延焼阻止線**を設定したが、**強風による飛び火が継続**したため、**阻止線を越えて延焼が拡大**した。

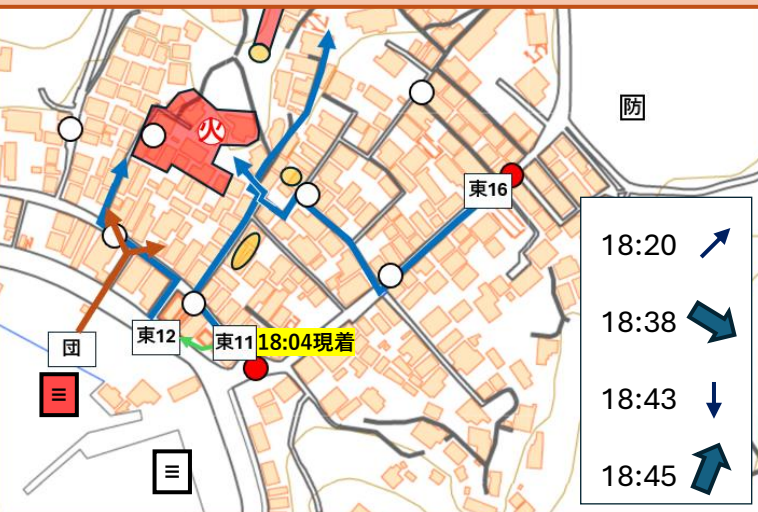
覚知時刻 17:43

※紙面の都合上、初動の消防部隊、消防団の一部を記載

17:55頃 現場直近の署所から出動した部隊の活動状況



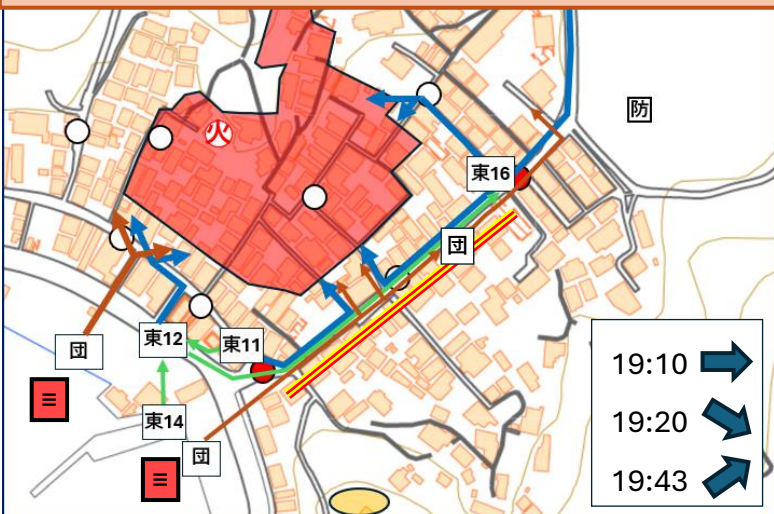
18:15頃 本署から出動した部隊等の活動状況



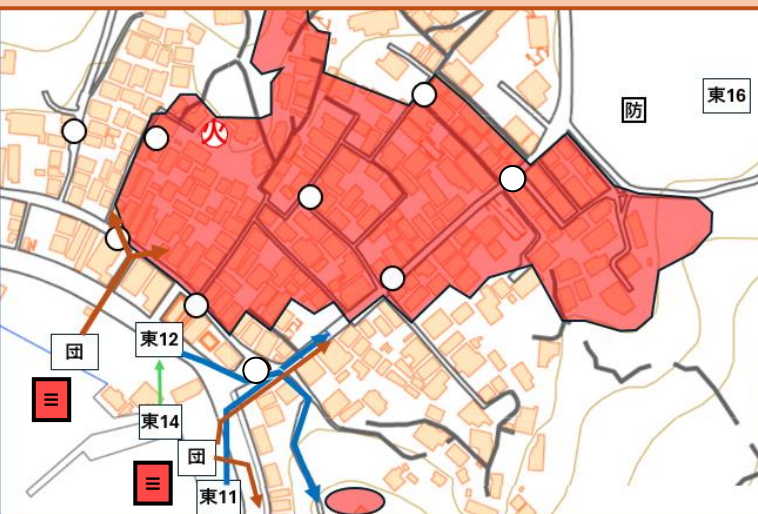
凡例

- 火：出火点
- 延焼範囲
- 部隊 (〇〇は部隊名等)
- 飛び火火災 (隊員の証言等から推測)
- 消火ホース (消防本部)
- 消火ホース (消防団)
- 中継ホース
- 延焼阻止線
- 風向・強さ(弱)
- 風向・強さ(強)
- 消火栓
- 防火水槽
- 自然水利 (使用中の消防水利は赤色で明示)
- 活動隊員のウェアラブルカメラの映像から判断。弱は葉が揺れる程度、強は映像に風切音が入る程度の風

20:00～21:00頃 延焼拡大による活動状況の変化



21:00～22:00頃 延焼阻止線を越えた延焼拡大



応援要請等の実施時刻

時分	内容	消防隊数
17:45	第1出場	8隊
18:21	特命出場	2隊
18:58	第2出場	2隊
19:36	第3出場	2隊
22:40	県内応援	3隊
23:40	県内応援	4隊

※救急隊等を除く。



# 佐賀関地区の特徴と消防活動への影響

※大分市消防局への調査結果をもとに作成

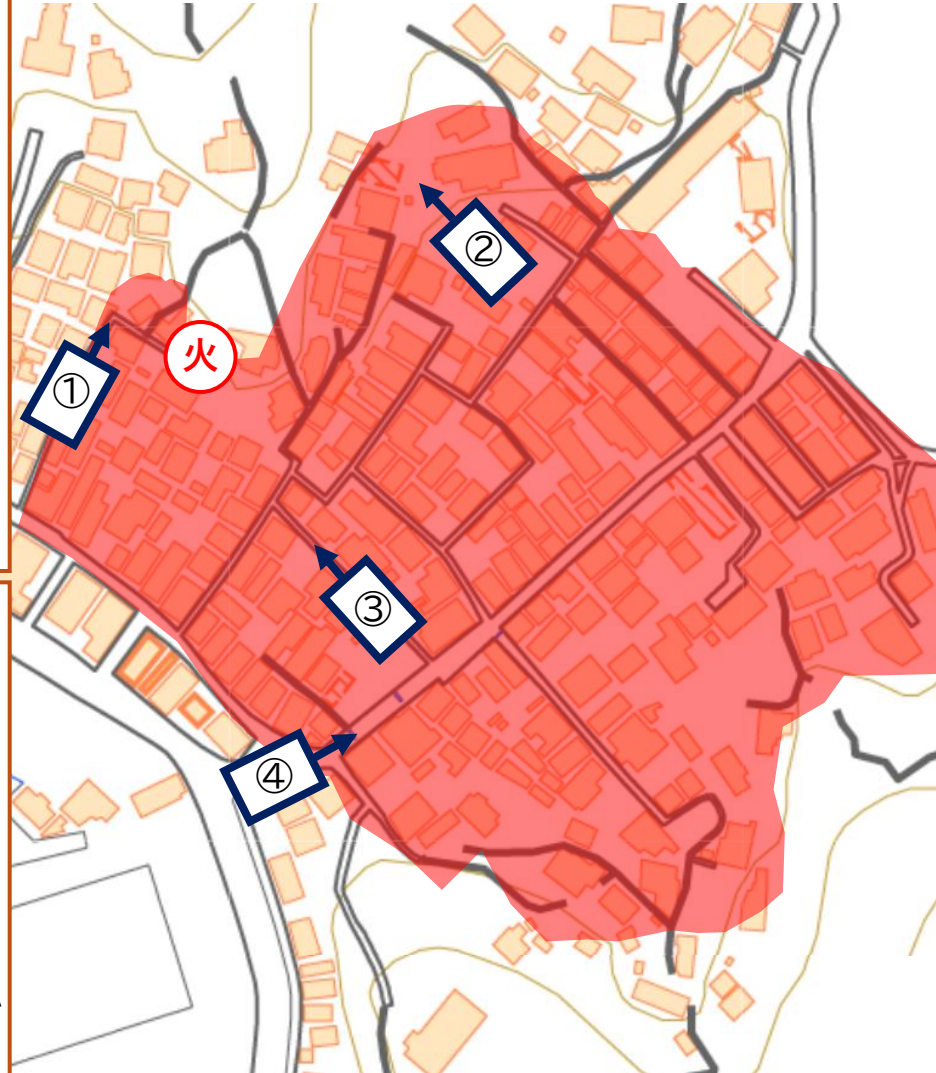
佐賀関地区は、**木造住宅が密集**し、ホースカーも通れない**狭隘路が多数**あるほか、年間を通じて**強風が多い**などの延焼危険要因があることから、大分市消防局は**延焼警戒区域に指定**している。これらの地域特性は、今回の大分市大規模火災における消防活動に、次のような影響を及ぼした。



住家が傾斜地に建ち並び、**至る所に階段や坂**があったことから、ホース延長や資器材搬送など、**活動上の負担**が大きかった。



延焼拡大に伴い、転戦を含む**多くの筒先配備が必要**となったことから、**自然水利の活用等**により、**有効水圧を確保**し活動にあたった。



住家に囲まれ、**周囲の状況把握が困難**な箇所が多く、急激な延焼で**退路を断たれる危険性**がある中、留意して活動に従事した。



**延焼阻止線を設定**したことで、延焼を免れた住家がある一方、**飛び火により、阻止線を越えて延焼する住家**があった。



# 大分市消防団の活動の概要

※大分市消防団への調査結果をもとに作成

大分市消防団は、地域住民の生命・財産を守るため、**避難の呼びかけや避難誘導、消防本部と連携した消火活動、残火処理、警戒活動**などに従事した。

【活動期間:11月18日～11月24日、活動人数:延べ600人】

特に**初動においては、地元消防本部の指示により、消防団は避難の呼びかけや誘導誘導の対応に注力した。**

## 大分市消防団の活動

11月18日

18時20分～ 避難の呼びかけや避難誘導

18時40分～ 一部分団は地元消防本部と連携し、市街地の消火活動

22時00分～ 一部分団は地元消防本部と連携し、山林地域の消火活動

11月19日以降

消防本部と連携し、市街地や山林の消火活動・残火処理



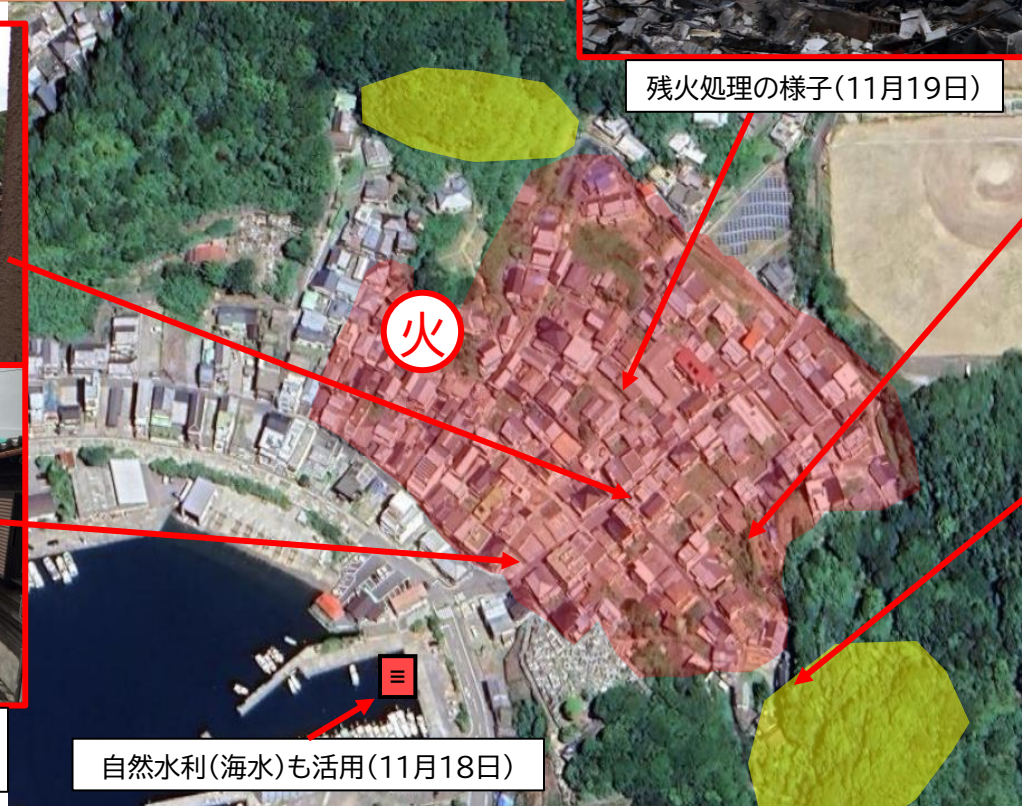
残火処理の様子(11月19日)



消火活動の様子(11月19日)



山林エリアの消火活動の様子  
(11月19日)



自然水利(海水)も活用(11月18日)



遠距離送水のための  
ホースライン確保の様子(11月19日)

出典: Google Map



# 大分県防災航空隊等の活動の概要

※大分県防災航空隊への調査結果をもとに作成

- 11月19日 ・ 6時52分に大分県防災ヘリにより大分市内の情報収集及び林野への消火活動を開始  
・ 相互応援協定により熊本県防災ヘリ、災害派遣要請により自衛隊ヘリが活動開始
- 20日 熊本県防災ヘリに代わり福岡市消防ヘリが活動開始
- 消防防災ヘリは、最大2機体制で自衛隊とは時間帯を分け、林野への消火活動を実施。また、大分市内の情報収集（熱源調査）及び蔦島への人員輸送を実施

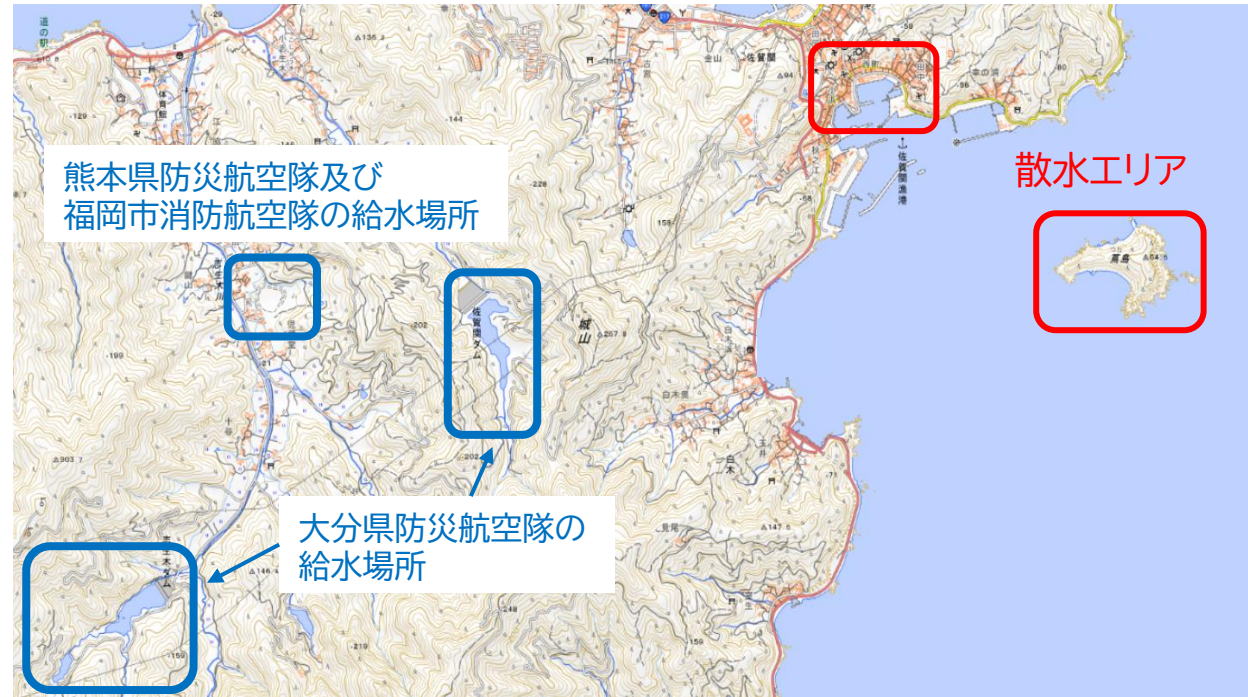
## 各航空隊の散水量

航空隊	回数(回)	散水量(t)
大分県防災航空隊	146	48.8
熊本県防災航空隊	22	7.45
福岡市消防航空隊	4	1.2

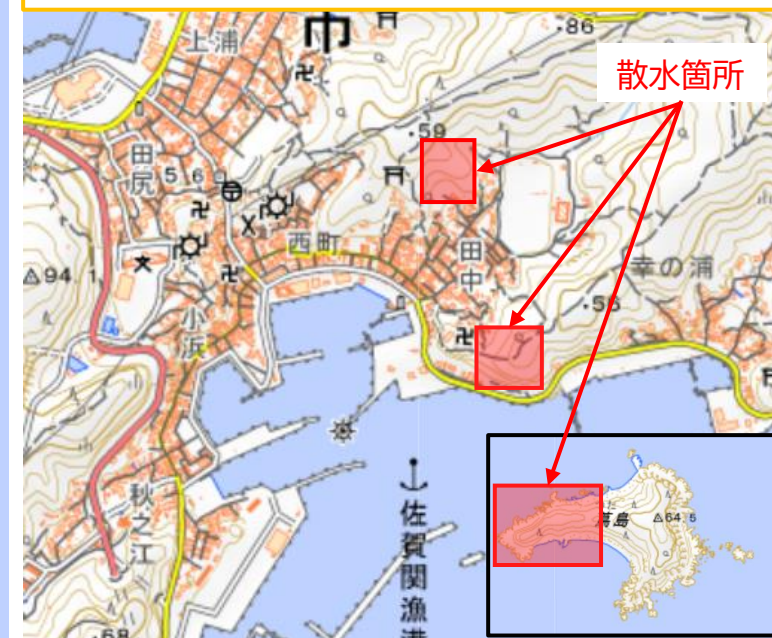
<参考>

自衛隊ヘリの散水量 UH-1 15回 7.5t  
CH-47 98回 490t

※大分県庁からの報告に基づく数値



## 散水エリア拡大図



## 消防活動を想定した地域特性の把握

- 出火建物までは、**高低差**のある**狹隘路**が続き、**ホース延長**や**資器材搬送**等を行う上での**負担が大きかった**。
- さらに、街区が複雑で迷路のようになっており、放水したい建物等への接近が困難な状況もあったことから、火災発生時における**実際の消防活動を想定**し、事前の実地踏査等により**地域特性を把握**しておくことの重要性が認識された。

## 継続的な有効水圧の確保

- 活動初期は、速やかに延焼建物へ放水するため、タンク水や消火栓を活用した消火活動を実施したが、延焼が激しく、**大量放水が必要**となったため、**海からの水利確保**や**筒先統制**により、**有効水圧の確保**を図った。
- 大量放水の継続を可能とする**自然水利の活用計画**や、消火栓が接続する水道管の口径を勘案した**放水可能口数の事前指定**など、継続的な有効水圧の確保に向けた取組の重要性が認識された。

## 効果的な延焼阻止線の設定

- 延焼阻止線の設定により延焼を防いだ住家がある一方、飛び火等により阻止線を越えて延焼が拡大した住家があった。
- 延焼阻止線の長さに応じた消防力の算定**や、飛び火等を勘案した**二重の延焼阻止線の設定**など、効果的な延焼阻止線を設定することの重要性が認識された。

## 応援要請による消防力の確保

- 現場指揮者は、**消防力の不足を判断**し、順次、部隊の増強と指揮体制の変更を行った。
- これまで、火災による県内応援を要請した事例はなかったが、第3出場体制(消防本部内最大)まで増強しても対応できないと判断したため、県内応援を要請して対応にあたっており、**応援要請による消防力の確保**の重要性が認識された。

## 安全管理体制の徹底

- 街区内では周囲の状況把握が困難な中、急激な延焼拡大で**活動隊員が火に囲まれる危険性**があったことから、無線等による**情報共有**や、**退路の事前確保**など、安全管理に留意して消火活動に従事した。
- 活動上の危険が存在する現場において、安全を確保した消火活動を実施するため、**地域特性を踏まえた安全管理上の留意事項**について、徹底しておくことの重要性が認識された。